

「新しい公共サービスの創造と市民社会」セミナー第1回の開催

8月1日、津市・三重地方自治労働文化センターにおいて今年度の事業の一つである「新しい公共サービスの創造と市民社会」と題したセミナーの第1回を開催しました。当セミナーは、三重大学人文学部教授 児玉 克哉氏を座長にお迎えし、いかに住民と行政が「協働」して地域づくりを進めるか、行政の立場から住民参加による公共サービスのあり方及びNPOなど住民側の公共への参画などをテーマにしています。

行政職員や幅広い立場の地方議会議員、地域活動者など多くの参加をいただき、初回ということで、まず、座長でもある児玉教授よりセミナーの主旨および「新しい時代の公共サービス」と題した講義をいただき、次に、<地方自治総合研究所三野研究員から「指定管理者制度と市場化テストの課題」と題した講義をいただきました。

児玉教授からは、「これまで官の側は、公の利益追求を個体的権力追求官僚・省庁中心の利益へ、一方、民の側も企業はその社会的役割を放棄し企業利益中心へ、市民も共に生きることから個人中心個人利益中心へと動いてきた。今後はこれらの動きを逆行させ、個の利益だけでなく全体の利益を優先する社会システムを築く必要がある。」と図をまじえて講義いただきました。

また、三野先生からは、「今回の指定管理者制度導入は国が、突然、官から民へと言う流れをとということで作り出した制度であり、自治体・企業・市民などそれぞれ受け皿づくりができていない中で始まった。過度なコスト削減や自治体の政策転換は指定管理者の撤退さえ招いている。2期目の指定に際しては、その政策的目的や業務の継続性・安定性、公契約としての社会的諸問題の精査などを検討しながら進めていく必要がある」といった講義をいただき、その後、質

疑・意見など活発な議論をいただきました。なお、第2回は9月5日(水)に自治体の事例紹介と交流を中心に開催します。今後の日程等は自治研センターホームページをご覧ください。